

86 その他

現状の建設業

橋本建設株式会社
土木部所長
澁 和 彦

1. はじめに

工事概要

本工事は、富山県高岡市より発注された土木工事であり、都市計画道路下伏間江福田線とJR城端線京田踏切の立体交差に伴う工事で、ボックスカルバート・U型擁壁・重力式擁壁で構成され、延長L=333m（内 U型擁壁L=33m）を施工するものである。

- (1) 工事名：下伏間江福田線立体交差整備
その5工事
- (2) 発注者：高岡市
- (3) 工事場所：富山県高岡市下黒田地内
- (4) 工期：令和2年6月25日～
令和3年6月10日
- (5) 施工数量：現場打ちU型擁壁工
床掘3100m³、埋戻し730m³
コンクリートV=1263m³
型枠A=1370m²、鉄筋106t

2. 現場における問題点

本工事では土工、鉄筋工、型枠工、防水工、足場工、仮設工、楊重工、コンクリート圧送工等とさまざまな職種の作業を行ってきたが、どの業種も人材不足のため、外国人実習生・研修生が現場で施工を行っていた。

近年建設業では人手不足に伴い、若年入職者の割合が減少しているとともに、高齢者化が進行

し、次世代への技術継承が心配される。

また、外国人労働者の現状は現場では職長を中心に同僚・仲間から仕事（作業内容）等を指示され作業を行っていたが、本当に内容を理解しているかは疑問であった。

また危険な作業（近道行為）を行おうとした時の注意の仕方にも管理者は戸惑いがあった。

今後、日本の建設現場には外国人実習生はなくてはならない存在である。日本人と外国人労働者の会話・コミュニケーション・考え方の違い、また、日本人の若者が建設業に就職し飽きずに長く続けて働けるかがこれからの課題だと思う。

3. 工夫・改善点と適用結果

日本人の若者には、まだ建設業界は3K（きつい・汚い・危険）のイメージが有るのか就業率が低いと思う。そこで、次のことを考え実施した。

(1) 建設現場の環境整備

現場事務所、休憩所等にエアコン、電子レンジ、ウォーターサーバー等の設備を設置し、労働者の環境を整えた。また、AEDの設置も行った。緊急事態の際、素早く救命救助が行えることができ、建設現場周辺の通行人にも応急処置が出来ると考えた。

(2) 建設業のイメージを変える

建設業は外での仕事なので、夏は暑く冬は寒いイメージが有るが、作業服を空調服にすることや今までの地味な作業服ではなく、オシャレな作

作業服を着て、作業員・周辺住民にアピールした。

(図-1)



図-1 オシャレな作業服 空調服

(3) 建設現場のトイレ

建設現場では、まだまだ汲み取り式トイレが一般的に使用されているが、周辺住民へのニオイの問題・衛生的環境に配慮し、水洗トイレの使用を行った。近年では女性も建設業に携わる方が増えてきているので、男女別のトイレを設置した。

(4) 学生に建設業の魅力を伝える

建設現場の魅力や作業内容を知ってもらうため、建設業協会主催の工業高校生の現場見学会を行った。学生達に建設業を知ってもらい、興味を持ってもらうことが、若年入職者を確保する第一歩だと思う。(図-2)



図-2 工業高校生の現場見学会

(5) 外国人とのコミュニケーション

建設現場では必ず危ないこと、危険作業が伴う。その時、日本語で『危ない』と言っても外国人には伝わらない。そこで、事前に作業内容のマンガ絵を書き、日本語、外国語で注意点を書いた。また、作業前に周知会を行い、言葉・紙・ジェスチャーを使い作業の確認を行った。

外国人が日本語を覚える、日本人が外国語を覚えるのは、これからの建設業では大切な事になると思う。(図-3)

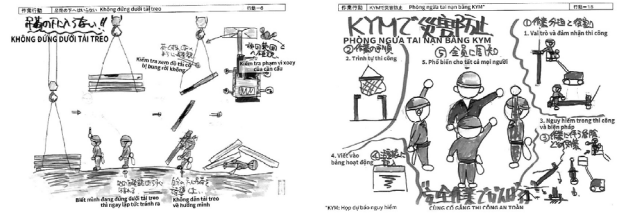


図-3 マンガ絵で外国語での説明

4. おわりに

建設業はこの世から絶対に絶やしてはならない業界であるのに、年々就業者は減っている。

建設業就労者は55歳以上が約35%、29歳以下が約11%と高齢化が進行し、次世代への技術継承が課題になっていると思う。

今はまだ大丈夫かもしれないが、安心はできない。

10年後には60歳以上の人達は引退している可能性がある。建設業界は半年、1年で伝承できるものではないので、今から若年入職者の確保、育成が大切だと思う。

人材確保の為には、積極的に学校に足を運んで建設業の魅力をアピールし、悪いイメージを腐食することが大事である。その為には、これから就職活動が始める学生達が夏休みを利用してインターンシップを行うことで建設業に興味を持ち、足を踏み入れる一歩になる。インターンシップによって、多くの学生の声を聴くことが出来る。その、学生達の声に耳を傾ける事で、建設業の改善点などが分かり、これからの建設業界の発展につながると思う。